

想

FRONT
Voice

～ 血管造影検査について ～

放射線科主任医長 白石 直孝

特集 ～ 薬剤科の紹介 ～

旬の味だより
～小松菜と豚肉のカレー煮～

JR九州病院 広報誌「そう」第24号



題名：青空いっぱい
撮影：石井 正子 (NTTパソコンセミナーOBデジカメクラブ)
撮影場所：福岡市郊外
撮影者コメント：春に先駆けて咲いた「枝垂れ梅」
青空に映えて見事でした

'13新年
JR九州病院

～血管造影検査について～

白石 直孝
放射線科 主任医長

はじめに



心臓カテーテル検査用の血管造影装置はすでに当院で使用されておりますが、昨年11月末に最新鋭の腹部血管造影装置が導入され、腹部はもちろん、頭部や四肢を含め、全身の血管造影検査が可能となりました。

血管造影検査とは？



血管造影検査は、血管の写真を撮って、病気の診断を行なう検査としてスタートしました。普通にX線写真を撮ったのでは血管は写りませんので、カテーテルという細い管を介して、観察したい血管内腔に造影剤を充満させた状態にしてX線写真を撮ることとなります。腹部や頭部の血管造影検査では、足の付け根の皮膚越しに大腿動脈を直接穿刺して、ガイドワイヤーを動脈内に挿入し、それにカテーテルをかぶせてゆくという形で、目的の血管が撮影できる部までカテーテルを進めます。皮膚に数mm程度の傷をつけますが、身体に対する侵襲は非常に小さな検査です。また造影剤、カテーテル、ガイドワイヤーの進歩もあり、より安全な検査となってきています。

造影剤を血管内に注入する時間は頭部の検査では1～2秒、腹部の検査では5秒程度の場合が多いです。そして、10数秒程度の中に数10コマ撮影することが多いです。CT検査や超音波検査やMRI検査がなかった時代には、血管造影検査が病気の診断の切り札的検査となっていた時代がありました。

CTやMRIや超音波検査で身体の断層像を容易に得ることができるようになった現在では、診断目的で血管造影検査を行なうことは、少なくなりました。

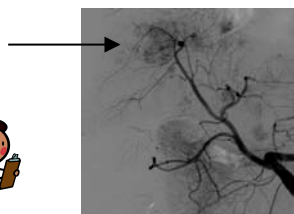
現在では、悪性腫瘍に対する抗癌剤の動注と栄養血管の塞栓、破綻した血管からの出血の止血等の「血管造影手技を使った低侵襲性治療」として血管造影検査がなされることが多くなっています。患者さんへの侵襲が少なく大きな成果をあげることができる検査という特徴を有しています。

今後の目標

昨年4月に当院に赴任してから、心臓カテーテル用の装置を使って、腹部血管造影検査(主に肝細胞癌に対する動注化学塞栓療法)「TACE」を施行してきましたが、心臓をターゲットとした装置であるため、1回の撮像で肝臓全体を収めることができませんでした。昨年暮れに最新の腹部血管造影用装置が導入され、より本格的にTACEを施行することが可能となりました。この装置は40cm×40cmの検出器(最新のフラットパネル検出器)を有しています。検出器を半周強回転させて、CTと同様の横断像も得ることができ、病巣が確実に治療範囲に入っていることが確認できるようになりました。

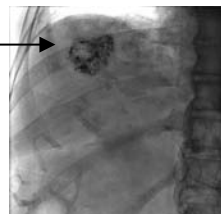
肝細胞癌のTACE、肝細胞癌や多発肝転移に対する肝動注リザーバー、BRTO(胃の静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術)、消化管出血の止血、BAE(咯血に対する気管支動脈塞栓)、外傷性出血の止血、動脈瘤のisolation、UAE(筋腫に対する子宮動脈塞栓)、CTガイド下での生検や膿瘍のドレナージ、診断目的の脳血管撮影等で寄与できればと思っております。

肝細胞癌



肝細胞癌

← (TACE施行前)

肝細胞癌の
栄養血管撮影

← (TACE施行後)

抗癌剤を動注し
栄養血管の塞栓後、撮影

薬剤科の紹介

薬剤科紹介

薬剤科では現在8名の薬剤師と補助1名が他の医療スタッフと連携して、入院・外来患者さんへの最適な薬物療法を提供できるように、業務に従事しています。

薬剤科の業務

医師の処方に基づく調剤、医薬品の適正使用の推進、患者さんへの服薬指導、医薬品についての情報提供および医薬品の保管管理から成り立っています。そのため、処方されるすべての薬剤について、薬剤の相互作用など処方内容をチェックし、正確・迅速な調剤を行い、服薬について正しく理解できるよう指導を行なうとともに、副作用も含めた効果をフォローしていくことを業務としています。

処方せん監査・調剤業務(外来・入院)

医師が処方した処方せんに従ってお薬を作っています。その際、調剤する前に必ず、お薬の量や飲み方、飲み合わせ、重複投与などのチェックをして疑問があれば医師に確認しています。また、全自動錠剤分包機を活用して、患者さんが薬を服用しやすいように数種類の錠剤を患者さんのお名前・科名(病棟)・服用時間を印字し、1包ずつ包装もしています。

その他業務

注射薬のセット業務や医薬品情報管理業務(DI業務)、薬剤管理指導業務などをおこなっています。クリーンベンチや「安全キャビネット」を活用して、中心静脈栄養療法の注射薬や抗癌剤の無菌調整なども行い、より安全性の高い医薬品の供給に努めています。

これが安全キャビネットです



薬局受付です、どうぞお気軽に声をおかけください。



旬の味だより

この季節にピッタリのお料理をご紹介します♪

小松菜と豚肉のカレー煮



【1人あたりのカロリー】
約150kcal

材料(2人分)

・小松菜	200g程度	・味噌	こさじ1杯
・豚肉	120g	・カレー粉	こさじ1杯
・塩麴	小さじ2杯	・片栗粉	こさじ2杯
・サラダ油	小さじ1杯		
・中華スープ	400CC		

作り方

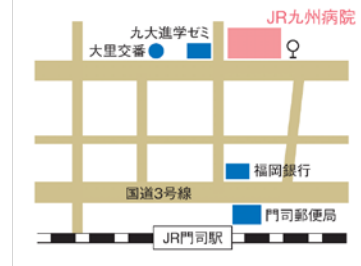
- ① 小松菜を5cmの長さに切る。豚肉は食べやすい大きさに切り、塩麴とよくなじませておく。
- ② フライパンにサラダ油を入れ、豚肉を中火で炒める。その後、小松菜を入れ軽く炒めた後、中華スープを加える。
- ③ 煮立ったら、味噌・カレー粉を入れ、味がなじんだら水溶き片栗粉を入れ、とろみを付けて出来上がりです。

小松菜は、ほうれん草よりカルシウムが約3倍含まれています。その他ビタミンも多く含まれているので、汁ごといただけるメニューがお勧めです



JR九州病院 管理栄養士 佐伯 昌子

JR九州病院のご案内



〒800-0031 北九州市門司区高田2丁目1番1号

TEL (093) 381-5661

FAX (093) 381-1077

JR門司駅から徒歩10分/西鉄バス高田二丁目下車徒歩1分

JR九州病院 ホームページ

<http://www.jrkyushu-hospital.jp/>

JR九州病院

検索

【当院理念】

私たちJR九州病院は、

安全で良質な医療サービスの提供を通じて、
安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

【当院基本方針】

1. 患者さんの安全と、安心できる医療環境の整備に努め、医学的根拠に基づいた良質な医療の提供を行います。
2. 患者さん、ご家族への説明と同意のもとに、患者さんの意思と権利を尊重した医療を行います。
3. 医療連携を通じ、地域に開かれた中核病院として、医療の充実に努めます。
4. 職員の相互理解とたゆまぬ研鑽を通じて、活気ある職場を目指します。
5. 医療資源の有効活用と健全な病院運営を行います。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。正月は気がゆるみ、つい食べ過ぎて体のほうもかなりゆるんでしまいました。

近頃はまっている、ウォーキングをぼちぼち再開しようと思っています。去年は、しまなみ街道ウォーキングに参加して40km完歩でき自信もついてきました。見慣れた町並みをゆっくり歩くと、意外と知らない場所が多いことに驚かされます。新しいお店の発見や、自然とのふれあいもできとても楽しい時間を過ごす事が出来ますよ。春には、JR九州病院もコースも入っているコースもありますので、是非参加してみてください。

看護師 平 八重子

想 (そう) 新年号(通巻24号)
平成25年1月発行(季刊)
発行人:林田一洋(JR九州病院 院長)

JR九州病院 広報委員会「つばめ」
副院長 亀井 隆史
事務長 藤井 秀一郎
看護部 平 八重子、山本 幸代、中原 周一郎
薬剤科 白江 泰代
中央放射線室 石井 佳人
リハビリテーション室 山下 真由子
中央検査室 有吉 大悟
医療連携室 下田 清隆
総務課 藤木 泰治、吉田 利枝

編集・発行・印刷:JR九州病院
北九州市門司区高田2丁目1番1号
TEL 093-381-5661